

【オリコンサルグローバル 施工監理業務契約で調印式 ヤンゴン・マンダレー 鉄道整備事業フェーズⅡ】

施工監理業務契約で調印式

オリコンサルグローバル ヤンゴン・マンダレー 鉄道整備事業フェーズⅡ

オリエンタルコンサル
タンクグローバルが施工
監理のコンサルティンク
サービスを提供するJV
の代表を務めるミャンマ
ー国における「ヤンゴン
・マンダレー」鉄道整備事
業フェーズⅡ施工監理業
務」の契約調印式が22日、
首都ネピドーのミャンマ
ー国鉄本社で執り行われ
た。写真。

同業務は、タウング
ー・マンダレー間の約35
0キロを対象に土木工事、
信号通信工事、電力工事、
車両調達等を含む鉄道の
改修・近代化を行うもの。
フェーズⅠ(ヤンゴン・
タウングー間・約270
キロ)の施工監理業務(16
年12月契約締結)に続く
受注となる。

ヤンゴン・マンダレー
鉄道(約620キロ)は、
同国の経済動脈としての
役割を果たしており、最
大の商業都市ヤンゴン、

首都ネピドー、第二の商
業都市であるマンダレー
を結ぶ重要な幹線鉄道と
なっている。しかし、路
線の多くが英国植民地時
代に建設されているた
め、橋梁の老朽化・劣化



によって列車速度が上が
らず、また、線路のゆが
みによる列車事故が発生
するなど、様々な課題が
あった。

同事業は、ヤンゴン・
マンダレー間の鉄道改良
と近代化を進めることに

より、旅客・貨物の安全
性や輸送能力を向上さ
せ、同国の経済発展に寄
与することを目的に実施
するもの。18年11月に起
工式が行われたフェーズ
Ⅰ(ヤンゴン・タウング
ー間)に続き、全区間の
早期改修完了を目標とし、
フェーズⅡ(タウングー
・マンダレー間)で改修
事業を進め、全事業終了
後には現在14時間を要し
ているヤンゴン・マンダ
レー間の乗車時間が約8
時間に短縮される予定
だ。